III－2. 憂愁の国

少女たちのひとつの心的傾向として、メランコリーというものを挙げることができるかもしれません。たとえば第Ⅰ章では大正から昭和にかけての少女雑誌文化の華やかなる時期を御紹介しましたが、少女雑誌に掲載された少女小説の哀しい筋立てやそれに添えられた挿画のもつはかなげな美しさは多くの女学生たちをとりこにしました。

また、少女たちのかたちづくる内省的な「こころの王国」は現代アートの世界でも魅力的なモチーフとして表現されています。そこでは、ひとりの少女の内面に生まれる、あるいは少女たちの強い結びつきが作り出す内向きの世界が（これはネガティブな意味ではありません）近寄りがたい荘厳さで描かれます。私たち部外者は城壁の向こうにそんな王国の存在をうかがうことしかできないのかもしれません。